

会報 茶の間

第150号

6月1日現在会員数

男性 1,390名

女性 591名

計 1,981名

◆発行(公社)長野シルバー人材センター 〒380-0814 長野市大字鶴賀西鶴賀町1481-1
◇電話026-237-8315 ◇FAX026-237-8317



令和7年度定時総会が 開催されました

昨年に引き続き通常開催として5月30日、長野市芸術館にて開催されました。当日は、前日からの雨も止み、鈴木長野公共職業安定所長はじめ9人のご来賓のご臨席を賜りました。360人の会員の出席と委任状提出者1,214人を得て総会は成立し、提案された議案は、すべて可決されました。

役員の選任では、酒井理事長が一身上の都合により退会されることとなり、理事会の選任を経て新しい理事長に小林隆之理事が就任いたしました。

また、議事に先立ち本シルバー人材センター事業にご尽力をいただいた、地域班・会員の皆様を表彰しました。

最後に退任された酒井前理事長に感謝状を贈呈しました。

酒井理事長あいさつ



本日はご多用のところ、長野シルバー人材センターの令和7年度定時総会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

日頃から当センターの活動に對しまして、格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

また、ご多忙にもかかわらずご臨席を賜りました、長野公共職業安定所の鈴木敏之所長様はじめご来賓の皆様方におかれましては、日頃から当センターの運営に多大なるご理解とご支援を賜っておりますことに、心から厚く御礼申し上げます。

昨年度も、多くの会員の皆さんにご活躍いただき、植木の整枝・剪定、除草、建物管理や清掃作業、さらには派遣事業など、多岐にわたる分野で地域社会に貢献していただきました。

改めて感謝申し上げます。

昨今の社会・経済情勢を振り返りますと、依然として続く物価上昇やエネルギー価格の高騰、そして長引く人手不足といった課題が、私たちの暮らしや地域社会にもさまざまな形で影響を及ぼしています。

とりわけ、年金生活を基盤とする高齢者の皆さんにとって、生活の安定や就業機会の確保は、これまで以上に重要な課題となっております。

このような状況の中、当センターの果たす役割はますます大きくなっております。

会員の皆さんがこれまで培ってこられた知識・技能・経験を活かし、地域の多様なニーズにこたえていただくことが、社会全体の持続可能性にも直結していると、私たちは強く感じております。

本年度も更に、会員の皆さんの健康と安全を第一に、新たな仕事開拓を進め、就業マッチングの向上、デジタル活用の促進に取り組んでま

いります。

行政や企業、地域団体との連携も一層深めながら、「生涯現役社会」の実現に向けて、私たち自身も状況変化に對応し、成長していく所存です。

一方で、高齢者の就業において最も大切なことは、「安全かつ安心」です。

加齢による身体機能の低下に見られるように、年齢を重ねたからこそ気をつけなければならない点が多くある中で、当センターでは引き続き、安全就業の徹底に力を注いでまいります。

これまでも、安全講習会や現場でのリスク確認、就業前の体調チェックの推進など、さまざまな取り組みを行ってまいりました。

しかしながら、事故発生件数は依然として高止まり傾向が続いており、看過できない状況が続いております。

本年度も引き続き、事故ゼロを目指し、「無理をしない」「急がない」「ひとりで悩まない」を合言葉に、安心して働ける環境づくりを進めてまいります。

本日の総会では、議事に先立ち、シルバー事業の推進に当たり、範となる活動をされた地域班、そして会員として長年在籍され、ご尽力賜りました会員の皆さんを表彰させていただきます。

ここに深く敬意を表しますとともに、心からお祝い申し上げます。

また、表彰に引き続き、「令和6年度事業報告」及び「令和6年度決算報告」、「役員の選任について」の3議案と報告事項3件についてご審議をいただき、ご決議を賜りたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

結びに、本年度も会員の皆さんが健康でいきいきと活動できる一年となりますよう、また、ご来賓の皆様がますますのご健勝とご活躍を心から祈念いたしますして、開会のあいさつとさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

退任あいさつ

前理事長 酒井 登

このたび、一身上の都合により、理事長の職を退任させていただきますことになりました。

在任中は、多くの皆様のご支援、ご協力を賜り、無事に務めを果たすことができましたことを、心より感謝申し上げます。

振り返りますと、在任中は社会の大きな変化の中で、とりわけ、未曾有の困難ともいえる新型コロナウイルス感染症の影響を受け、私たちの生活、活動も大きな制約を受けました。

就業機会の減少、行事や研修の中止・延期、会員の皆様の不安——私自身も、理事長としてどう方向を見極め、舵取りをすべきか、日々悩みながらの運営でもございました。

コロナ感染を警戒して退会された会員さんも多くいた中においても、感染対策を徹底しながら、できる範囲で地域に貢献しようという会員の皆様、発注者様の満足のいく就業にあたられた会員の皆様の姿勢、そして柔軟に對応し続けた職員の皆さんの努力には、本当に頭が下がる思いでした。

行政の指導による「3密」を回避するため、参加者を極力絞って開催した総会も、昨年、5年ぶりに一堂に会し、皆様のお顔を拝見しながら開催できたこと、屋外作業・短時間勤務など、従来にはなかった新たな働き方・関わり方を模索しながら、何とかセンター事業運営が継続できたのは、皆様の力の賜物だと痛感しております。

このような経験を経た今だからこそ、私たちのセンターは、今後さらに柔軟で強い組織へと進化できると信じております。

本日から、新たに小林隆之さんが理事長にご就任され、長野シルバー人材センターは新たな一歩を踏み出します。

これまでの経験を活かしながら、より地域に必要とされる組織として、一層の発展を遂げてくださることと確信しております。

最後になりますが、これまで支えてくださったすべての皆様に、深く御礼を申し上げます。退任のあいさつとさせていただきます。

ありがとうございます。

新理事長あいさつ



本日はご多用の中、当シルバー人材センターの定時総会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

先ほど開催されました理事会において、長野シルバー人材センターの理事長に選任されました小林隆之でございます。身に余る大役を仰せつかり、その責任の重さを改めて実感しているところです。

皆様ご存じのとおり、私たちのセンターは、高齢者の皆様がその知識と経験を活かし、地域社会に貢献しながら生きがいを持って活動していただくことを目的としております。人口構造が変化しつつある現代において、その役割はますます重要になっていると日々感じております。

今後、より多くの会員の皆様に活躍の場を提供できるよう、行政や地域の関係機関との連携を一層深めるとともに、多様なニーズにこたえられる新たな事業の展開にも力を入れてまいりたいと考えております。

幸いにも当センターには、豊富な経験と知識を持った多くの会員の皆様がいらっしゃいます。そのような皆様のお力をお借りしながら、また、皆様と力を合わせ、会員の皆様が自分の居場所と生きがいを感じながら、安心して活動できるセンターを微力ではございますが目指してまいります。

皆様のこれまでのご尽力に深く感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導・ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

令和7年度表彰者名簿(敬称略)

表彰規定に基づき、センター事業に貢献をなされた次の班・者を表彰しました。

【役員表彰】

酒井 登

【地域班表彰】

(大規模班) 松代班 篠ノ井西班
(小規模班) 信濃班 戸隠班 浅川班

【会員表彰】

(在籍15年)

武川 正一 岩松 友義 上村 公男

高野 登 藤澤 妙 湯本 昭男

内山なをい 飯島 正義 清水 茂

酒井 武利 犂山 邦昭 落合 政子

中島 正任 滝澤 直機 田上 淳一

倉澤 正明 市川 祐次 細井 宏一

(在籍10年)

原山 勇 釵持しな枝 金子 勉

轟 保則 吉澤 忠久 田中 栄治

松木 雅春 保科 昭一 小市タマ子

石坂 光雄 松下 芳元 玉川 善浩

馬場 知視 塚野 良寛 田近 義巳

坂口 教道 倉嶋 利幸 黒柳 孝男

相澤 英雄 福澤 成則

理事会報告

定例議題・報告事項

- ①新入会員の承認 ②各部会等活動報告
③契約状況 ④事故報告 ⑤苦情等報告

議案

令和6年度

第9回(12月25日)

地域活動等参加推進ポイント制実施要綱の一部改正について

第10回(2月26日)

令和7年度事業計画の承認について
令和7年度収支予算の承認について

特定費用準備資金積立計画(変更)の承認について
地域活動推進委員会規程の一部改正について
職員給与規程の一部改正について

役員賠償責任保険契約について

令和7年度定時総会会員等被表彰者の決定について
貸倒損失の計上について

第11回(3月19日)

令和7年度定時総会の日時
及び場所について

顧問の選任について
特別会員の承認について

令和7年度理事候補者について

令和7年度

第1回(4月30日)

令和7年度定時総会議案について



令和7年度定時総会役員表彰被表彰者の決定について

育児・介護休業規程の一部改正について
職員就業規則の一部改正について

非常勤職員就業規則の一部改正について
令和6年度補正予算について

第2回(5月30日)

第3回(5月30日)

理事長の選定について



いつでも、どこからでも大事な
情報が見られるようになります！

会員専用サイト

Smile to Smile (スマイル トゥ スマイル) は、
シルバー人材センターと会員とのコミュニケーションツールです。

多くの会員の方にご利用いただくことで、
センターと会員との連携が強化されると考えております。

会員の方にとってもセンターからの情報をいち早く受けとることができます。ぜひご活用ください。

登録したホーム画面のアイコン(例)を
ご確認ください。



Android



iPhone

ご不明な点がございましたらセンターまで
お問い合わせください。☎0120-468117

会員専用サイトでできること！

センターからのお知らせ

センターからの最新情報をすぐに確認できます

就業情報の確認

希望に合う仕事を見つけて、応募できます

配分金明細の確認

毎月の配分金明細が確認できます

就業依頼の確認

仕事の依頼内容が地図付きで確認できます

※利用料金は無料です。インターネット接続料金は個人負担となります。



いっぷく

～エンジョイライフ～



村人の明治・大正時代の俳句

浅川班 田畑 健次

数年前に知人から、土蔵の改修工事中に表題の句会(3回分)が出てきたが旧仮名遣いのため、口語体にしてくれないかと頼まれた。私も全くの素人なので、長野市の公文書館の先生の指導を仰ぐことにして、数えきれないほど通い、やっと完成させた。明治10年の句会の原稿だけでも、216首、この機会に、明治35年8月、大正13年5月の村人の心を、素直に表現している?句を3回に分けて私なりにご紹介してみたいと思います。

明治十丑四月二七日

べ切五月五日開き候

月並み句会の下帳

春雨やきのうに変わる水乃音	里老女
吹き散るを見れば身に染む萩の花	昆研
白雨や外山の方は月の照る	全
雨の夜に濡れても啼くや時鳥	菊月
おちこちで啼くや夜更けの一声鳥	藤可
夕方になりて重たき日傘かな	喜水
風も無し夜中を栗の落る音	楚月
我が年の寄る数知らず田植え歌	竹の元
鹿啼くや月の漏れたる山の裾	全
案山子とも知らで名を呼ぶ日暮れ哉	春桜
夜が更けて町中を飛ぶ火垂れ哉	全
鹿啼くや月の洩れたる山の裾	竹の元
顔見れば老いも若さよ日傘かな	全
雨雲の晴れて間なく蟬の声	茂水
菊一輪一輪だけの句い哉	嘉一
水添いに蜘蛛の毛光る朝日かな	全
霞空今日は雲雀の物語	全
揚げて見て生きた様なりやつこ風	全
彼岸から彼岸まで哉軒つばめ	全
それぞれに老いの教え伝え田植哉	全
からかさきに畳み込みけり初時雨	全
ゆつたりと露でたるみし蜘蛛の糸	茂勝
握る手の中を抜けたる小夜螢	齋明
花見して宿の土産に花のえだ	春山
草野から今日は籠にてきりぎりす	小柳
親を背に子を引き連れて花見かな	さ津き
何處見ても心嬉しや春の山	梅若
行く人の足音止まる雪の朝	常春



雨晴れて人を招くやきのこ哉	全
母の手を添えて持たせて風の糸	信農
腰掛けて見たし雲雀の上る声	竹清
布をさす水身に染みて冬近し	泰寿
老いも子を抱いて来て見る門田植え	梅居
戻る道散り隠したる櫻花	松柏
かさかさ音して淋し落葉かな	春水
苗代の中に飛び込むカエルかな	大御丸
老人の力になるは杖子供	全
客側の馳走に向けるお茶煙草	全
福寿草採りて悦ぶ老いも子も	大御丸
春雨に初声高きカエルかな	近二
春雨初声高き蛙可那(原文)	全
我が家も隣の門も桜かな	全
若竹や露の力を重そうに	全
若竹や露乃知からをおも楚ふ尔(原文)	全

おご
り



機械刈り班 坂口 教道

事故ってしまった。胸のあたりまで伸びている草を刈っていた。最終日で、残り2箇所となった。あと一息だ。仲間は4人が70代、2人は80代だ。除草作業は現場を移動しながら行う。ポンプ場に到着したばかりだった。鍵を開けて、写真を撮って、最後の現場の水源池に向かうはずだった。曇ってはいたが朝から蒸し暑かった。おせっかいな私は2人のために半分くらい刈ってやろうと思った。少し刈るからちょっと休んでいて、と2人に声を掛けた。除草の基本は、真ん中を真つすぐ刈る。向こう側に着いたら、Uターンして、こちら側に戻る。数回往復すれば終わりだ。ポンプ場は狭い。楽勝だ。うっそうと繁茂していた草に向かって、ビーパーを降り下ろした。朝刃を替えたばかり、切れ味は抜群だ。ガリッとにぶい音がした。腰の高さの所に何か障害物があったかな。茂った草が視界の邪魔をしていた。アルミでカバーした配水管が現れた。15cmくらいキズを付けてしまった。

午前11時、事故の報告をした。担当はお

休みだった。電話の相手は、「どうしました。それでお怪我はなかったのですね。早めに事故報告書を出して下さい。」「はい。」と私。事故は一瞬にして起こった。二度と迷惑をかけてはいけない。悔しかった。情けなかった。いくら後悔しても後の祭りだ。発注元の担当者が交代したので、例年6月に実施していた除草が1か月延びた。年3回刈る現場なので普段はそれ程質の悪い雑草が生い茂ることはない。しかし、今回は浅川並に草の勢いが強かった。作業前に、目視で現場の状況を確認する、基本の基ができていなかった。原因は私の醜い驕りであった。直前まで思っていたのだ、私に事故は無縁だと。

草刈りも一段落した師走のある日、センターから一通の封書が届いた。免責額の3万円を支払って下さいという通知だった。

おくやみ

謹んでご冥福をお祈りいたします

近藤 朝子様 24年12月12日 大豆島班
村上 勇様 25年2月19日 若槻班
浪方 宏勝様 25年3月24日 朝陽班

人事異動

退職

令和7年3月31日付

総務課課長

倉島久美子

採用

令和7年4月1日付

総務課課長

清水 広一

令和7年5月1日付

事業課主事

原 知輝



清水広一



原 知輝

編集後記

令和7年度定時総会も大勢のご参加をいただき無事終了しました。小林隆之新理事長の下、生まれ変わった長野シルバー人材センターを、皆で育てていきましょう。

「茶の間」150号の発行に当たり執筆、ご投稿いただいた皆様ありがとうございました。

最近のニュースでは油の切れた機械のようなギスギスした人間関係を多く感じます。何か潤滑油が必要です。あいさつ、そしてお願いします、すみません、ありがとうございます。ほしいのです。我田引水ばかりでは「ありがとう」がないのです。誰かのために頑張る『自主・自立、共働・共助』の中にそれが自然にうまれるものと信じます。

記 総務部会 井出 三夫